

令和 7 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2025 年 7 月 28 日

学 長 殿

所属部局・職名

(所属・学年) 食農科学研究科 修士 2 年

申 請 者 名

(学会発表助成の場合は参加者名) 篠崎 奏子

<p>助成の区分 (該当するものに○)</p>	<p>○学会発表助成・学術出版助成・学術論文発表助成</p>
<p>研究活動名</p>	<p>WET-2025 参加 (ミニプレゼンテーション・ポスター発表・聴講)</p>
<p>成 果 の 概 要</p>	<p>WET-2025 (Water Environment and Technology-2025, Nagaoka, Japan, 2025.07) への参加・発表 (SHINOZAKI, K., HARADA, S., ISHIKAWA, N., Holistic Exploration of Factors Driving Rapid Water Quality Changes and Ecosystem Transitions in Lake Inawashiro、ミニプレゼンテーション及びポスター発表による)・聴講を下記のように 7 月 4 日から 6 日まで 2 泊 3 日の日程で行った。本活動を通じて、修士研究成果について指導教員と議論を進め、得ている成果を示し、修士論文とりまとめに向けて貴重な情報を得た。</p> <p><b>7 月 4 日</b> 指導教員との合流までは自力でミニプレゼン資料の作成を行い、ホテルグリーンプラザにチェックイン。その後、指導教員と合流し打ち合わせを行い、ミニプレゼンとポスター発表の大筋を決めた。(泊)。</p> <p><b>7 月 5 日</b> まちなかキャンパス長岡にて指導教員とミニプレゼンとポスターの発表直前打合せと最終調整を行った。その後、アオーレ長岡に移動し参加受付、ミニプレゼンとポスター発表を実施した。中央大学の古米教授、立命館大学の佐藤准教授等と意見交換し、猪苗代湖で観測された pH の上昇の原因について、新たな視点や知識を得た。その後は他のセッションを聴講した。(泊)。</p> <p><b>7 月 6 日</b> アオーレ長岡にて午前午後のセッションを聴講した。大阪大学の兼子さん、桑井さんの発表から、分野間の研究の進め方や傾向の違い等を学んだ。その後、帰途に向かった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>